

(表 2-2-21) 重ね着事例における対応視点別選択率比較

新人		選択率 順位	指導者			
人数 (N=40)	選択割合		視点項目	選択割合	人数 (N=45)	
19	47.5	健康、身体状況、バイタル	1	過去の生活習慣、生活歴	53.3	24
16	40.0	室温	2	健康、身体状況、バイタル	51.1	23
13	32.5	過去の生活習慣、生活歴	3	室温	37.8	17
11	27.5	暑がり、寒がりか	4	嗜好、こだわり、趣味	31.1	14
9	22.5	普段の行動状況	5	体温調節機能	28.9	13
9	22.5	認知機能	6	普段の行動状況	24.4	11
8	20.0	嗜好、こだわり、趣味	7	本人の意志、気持ち	22.2	10
5	12.5	体温調節機能	8	認知機能	20.0	9
5	12.5	外出希望の有無	9	認知症の原因疾患、種類	20.0	9
4	10.0	本人の意志、気持ち	10	外出希望の有無	15.6	7
4	10.0	認知症の原因疾患、種類	11	ものとり妄想	13.3	6
4	10.0	着衣失認(着ていることがわからない)	12	見当識	11.1	5
3	7.5	他者との関係	13	暑がり、寒がりか	8.9	4
2	5.0	見当識	14	着衣失認(着ていることがわからない)	8.9	4
2	5.0	既往歴、現病、疾病	15	既往歴、現病、疾病	8.9	4
2	5.0	転倒の危険性	16	発汗度	8.9	4
2	5.0	スタッフの対応	17	精神状態・気分	8.9	4
2	5.0	コミュニケーション能力	18	認知症の進行度	8.9	4
2	5.0	脱水、水分量	19	転倒の危険性	6.7	3
2	5.0	服薬、薬の種類	20	皮膚疾患、傷跡	6.7	3
2	5.0	スタッフの声かけ	21	気候、季節	6.7	3
1	2.5	ものとり妄想	22	寒気の有無	6.7	3
1	2.5	発汗度	23	排泄状況	6.7	3
1	2.5	精神状態・気分	24	着衣失行(着方がわからない)	6.7	3
1	2.5	皮膚疾患、傷跡	25	他者との関係	4.4	2
1	2.5	気候、季節	26	スタッフの対応	4.4	2
1	2.5	私物の管理状況	27	私物の管理状況	4.4	2
1	2.5	衣類の汚れ	28	衣類の汚れ	4.4	2
1	2.5	性格	29	せん妄の有無	4.4	2
1	2.5	家族関係	30	コミュニケーション能力	2.2	1
1	2.5	運動量	31	性格	2.2	1
1	2.5	食事量	32	家族関係	2.2	1
1	2.5	着替える場所	33	循環障害の有無	2.2	1
1	2.5	タンスの仕様	34	清潔度	2.2	1
0	0.0	認知症の進行度	35	睡眠状態	2.2	1
0	0.0	寒気の有無	36	服の置き場所	2.2	1
0	0.0	排泄状況	37	対応している介護者	2.2	1
0	0.0	着衣失行(着方がわからない)	38	脱水、水分量	0.0	0
0	0.0	せん妄の有無	39	服薬、薬の種類	0.0	0
0	0.0	循環障害の有無	40	スタッフの声かけ	0.0	0
0	0.0	清潔度	41	運動量	0.0	0
0	0.0	睡眠状態	42	食事量	0.0	0
0	0.0	服の置き場所	43	着替える場所	0.0	0
0	0.0	対応している介護者	44	タンスの仕様	0.0	0

* 備考: 新人の無回答を網かけ

新人、指導者とも選択率 10%の境界で二重線

○指導者に特徴的な項目を太字斜体

条件1 指導者の選択率 10%以上の項目で、新人の選択率 10%以上に入っていない項目

条件2 指導者が選択していて、新人が選択していない項目

○新人に特徴的な項目を太字斜体

条件は上と同様

(表 2-2-22) 重ね着事例におけるアセスメント視点優先順位比較

指導者のアセスメント視点項目	総合優先順位	新人のアセスメント視点項目
健康、身体状況、バイタル	1	健康、身体状況、バイタル
過去の生活習慣、生活歴	2	室温
室温	3	過去の生活習慣、生活歴
体温調節機能	4	暑がり、寒がりか
嗜好、こだわり、趣味	5	普段の行動状況
普段の行動状況	6	認知機能
本人の意志、気持ち	7	嗜好、こだわり、趣味
認知症の原因疾患、種類	8	体温調節機能
認知機能	9	認知症の原因疾患、種類
外出希望の有無	10	本人の意志、気持ち
発汗度	11	外出希望の有無
見当識	12	着衣失認(着ていることがわからない)
ものとり妄想	13	スタッフの対応
認知症の進行度	14	脱水、水分量
既往歴、現病、疾病	15	見当識
着衣失認(着ていることがわからない)	16	既往歴、現病、疾病
寒気の有無	17	服薬、薬の種類
暑がり、寒がりか	18	コミュニケーション能力
精神状態・気分	19	他者との関係
転倒の危険性	20	スタッフの声かけ
排泄状況	21	転倒の危険性
着衣失行(着方がわからない)	22	私物の管理状況
皮膚疾患、傷跡	23	ものとり妄想
私物の管理状況	24	気候、季節
気候、季節	25	発汗度
せん妄の有無	26	皮膚疾患、傷跡
他者との関係	27	食事量
スタッフの対応	28	衣類の汚れ
衣類の汚れ	29	着替える場所
対応している介護者	30	タンスの仕様
循環障害の有無	31	家族関係
コミュニケーション能力	32	運動量
性格	33	精神状態・気分
清潔度	34	性格
服の置き場所	35	
家族関係	36	
睡眠状態	37	

備考：

* 他群に比較して6位以上上位にある項目は太字、6位以上下位にある項目は斜体

* 両群において5位以内の差は網かけ

(表2-2-23) 着替え拒否事例における対応視点別選択率比較

新人			選択率 順位	指導者		
人数 (N=39)	選択割合	視点項目		視点項目	選択割合	人数 (N=44)
21	53.8	嗜好、こだわり、趣味	1	嗜好、こだわり、趣味	54.5	24
15	38.5	過去の生活習慣、生活歴	2	過去の生活習慣、生活歴	34.1	15
11	28.2	認知機能	3	スタッフの対応	27.3	12
8	20.5	普段の行動状況	4	認知機能	22.7	10
7	17.9	スタッフの対応	5	本人の意志、気持ち	22.7	10
6	15.4	認知症の原因疾患、種類	6	普段の行動状況	20.5	9
6	15.4	入浴回数、入浴状況	7	認知症の原因疾患、種類	18.2	8
5	12.8	本人の意志、気持ち	8	健康、身体状況、バイタル	18.2	8
5	12.8	健康、身体状況、バイタル	9	他者との関係	18.2	8
4	10.3	私物の管理状況	10	入浴回数、入浴状況	13.6	6
3	7.7	性格	11	精神状態・気分	13.6	6
3	7.7	清潔度	12	性格	11.4	5
3	7.7	着替える場所	13	認知症の進行度	11.4	5
2	5.1	精神状態・気分	14	家族関係	9.1	4
2	5.1	家族関係	15	ものとりれ妄想	9.1	4
2	5.1	衣類の汚れ	16	私物の管理状況	6.8	3
2	5.1	室温	17	衣類の汚れ	6.8	3
1	2.6	他者との関係	18	皮膚疾患、傷跡	6.8	3
1	2.6	ものとりれ妄想	19	着衣失認(着ていることがわからない)	6.8	3
1	2.6	皮膚疾患、傷跡	20	スタッフの声かけ	6.8	3
1	2.6	着衣失認(着ていることがわからない)	21	着衣失行(着方がわからない)	6.8	3
1	2.6	スタッフの声かけ	22	服の置き場所	6.8	3
4	10.3	分類不能	23	清潔度	4.5	2
0	0.0	認知症の進行度	24	暑がり、寒がりか	4.5	2
0	0.0	着衣失行(着方がわからない)	25	せん妄の有無	4.5	2
0	0.0	服の置き場所	26	着替える場所	2.3	1
0	0.0	暑がり、寒がりか	27	服薬、薬の種類	2.3	1
0	0.0	せん妄の有無	28	睡眠状態	2.3	1
0	0.0	服薬、薬の種類	29	タンスの仕様	2.3	1
0	0.0	睡眠状態	30	分類不能	4.5	2
0	0.0	タンスの仕様	31	室温	0.0	0

*備考:新人の無回答を網かけ

新人、指導者とも選択率10%の境界で二重線

○指導者に特徴的な項目を太字斜体

条件1 指導者の選択率10%以上の項目で、新人の選択率10%以上に入っていない項目

条件2 指導者が選択していて、新人が選択していない項目

○新人に特徴的な項目を太字斜体

条件は上と同様

(表2-2-24) 着替え拒否事例におけるアセスメント視点優先順位比較

指導者のアセスメント視点項目	総合優先順位	新人のアセスメント視点項目
嗜好、こだわり、趣味	1	嗜好、こだわり、趣味
過去の生活習慣、生活歴	2	過去の生活習慣、生活歴
スタッフの対応	3	認知機能
本人の意志、気持ち	4	普段の行動状況
普段の行動状況	5	スタッフの対応
認知機能	6	認知症の原因疾患、種類
健康、身体状況、バイタル	7	入浴回数、入浴状況
認知症の原因疾患、種類	8	健康、身体状況、バイタル
他者との関係	9	本人の意志、気持ち
精神状態・気分	10	私物の管理状況
入浴回数、入浴状況	11	清潔度
認知症の進行度	12	性格
性格	13	衣類の汚れ
ものとり忘れ妄想	14	着替える場所
衣類の汚れ	15	家族関係
着衣失行(着方がわからない)	16	精神状態・気分
家族関係	17	皮膚疾患、傷跡
スタッフの声かけ	18	室温
着衣失認(着ていることがわからない)	19	スタッフの声かけ
私物の管理状況	20	ものとり忘れ妄想
皮膚疾患、傷跡	21	着衣失認(着ていることがわからない)
暑がり、寒がりか	22	他者との関係
清潔度	23	
服の置き場所	24	
せん妄の有無	25	
睡眠状態	26	
タンスの仕様	27	
着替える場所	28	
服薬、薬の種類	29	

備考：

* 他群に比較して6位以上上位にある項目は太字、6位以上下位にある項目は斜体

* 両群において5位以内の差は網かけ

(表2-2-25) 衣服をためこむ事例における対応視点別選択率比較

新人			選択率 順位	指導者		
人数 (N=39)	選択割合	視点項目		視点項目	選択割合	人数 (N=43)
12	30.8	認知機能	1	過去の生活習慣,生活歴	58.1	25
11	28.2	過去の生活習慣,生活歴	2	認知機能	41.9	18
9	23.1	普段の行動状況	3	普段の行動状況	41.9	18
8	20.5	本人の意志、気持ち	4	本人の意志、気持ち	30.2	13
7	17.9	性格	5	スタッフの対応	18.6	8
7	17.9	認知症の原因疾患、種類	6	他者との関係	18.6	8
6	15.4	私物の管理状況	7	性格	16.3	7
3	7.7	衣類の汚れ	8	認知症の原因疾患、種類	16.3	7
3	7.7	認知症の進行度	9	私物の管理状況	11.6	5
3	7.7	清潔度	10	ものどられ妄想	11.6	5
2	5.1	スタッフの対応	11	健康、身体状況、バイタル	11.6	5
2	5.1	ものどられ妄想	12	排泄状況	11.6	5
2	5.1	嗜好、こだわり、趣味	13	精神状態・気分	11.6	5
2	5.1	対応している介護者	14	衣類の汚れ	9.3	4
1	2.6	他者との関係	15	嗜好、こだわり、趣味	9.3	4
1	2.6	健康、身体状況、バイタル	16	室温	7.0	3
1	2.6	排泄状況	17	せん妄の有無	7.0	3
1	2.6	精神状態・気分	18	服の置き場所	7.0	3
1	2.6	室温	19	認知症の進行度	4.7	2
1	2.6	スタッフの声かけ	20	皮膚疾患、傷跡	4.7	2
1	2.6	服薬、薬の種類	21	清潔度	2.3	1
1	2.6	タンスの仕様	22	対応している介護者	2.3	1
1	2.6	分類不能	23	スタッフの声かけ	2.3	1
0	0.0	せん妄の有無	24	既往歴、現病、疾病	2.3	1
0	0.0	服の置き場所	25	コミュニケーション能力	2.3	1
0	0.0	皮膚疾患、傷跡	26	着衣失認(着ていることがわからない)	2.3	1
0	0.0	既往歴、現病、疾病	27	着衣失行(着方がわからない)	2.3	1
0	0.0	コミュニケーション能力	28	家族関係	2.3	1
0	0.0	着衣失認(着ていることがわからない)	29	分類不能	2.3	1
0	0.0	着衣失行(着方がわからない)	30	服薬、薬の種類	0.0	0
0	0.0	家族関係	31	タンスの仕様	0.0	0

*備考:新人の無回答を網かけ

新人、指導者とも選択率 10%の境界で二重線

○指導者に特徴的な項目を太字斜体

条件1 指導者の選択率 10%以上の項目で、新人の選択率 10%以上に入っていない項目

条件2 指導者が選択していて、新人が選択していない項目

○新人に特徴的な項目を太字斜体

条件は上と同様

(表 2-2-26) 衣服をためこむ事例におけるアセスメント視点優先順位比較

指導者のアセスメント視点項目	総合優先順位	新人のアセスメント視点項目
過去の生活習慣,生活歴	1	認知機能
普段の行動状況	2	過去の生活習慣,生活歴
認知機能	3	本人の意志、気持ち
本人の意志、気持ち	4	普段の行動状況
スタッフの対応	5	性格
性格	6	認知症の原因疾患、種類
他者との関係	7	私物の管理状況
認知症の原因疾患、種類	8	清潔度
精神状態・気分	9	認知症の進行度
健康、身体状況、バイタル	10	衣類の汚れ
私物の管理状況	11	スタッフの対応
ものとり妄想	12	対応している介護者
排泄状況	13	嗜好、こだわり、趣味
衣類の汚れ	14	ものとり妄想
嗜好、こだわり、趣味	15	排泄状況
服の置き場所	16	タンスの仕様
せん妄の有無	17	スタッフの声かけ
室温	18	服薬、薬の種類
認知症の進行度	19	室温
既往歴、現病、疾病	20	精神状態・気分
皮膚疾患、傷跡	21	他者との関係
着衣失行(着方がわからない)	22	健康、身体状況、バイタル
対応している介護者	23	
スタッフの声かけ	24	
コミュニケーション能力	25	
清潔度	26	
着衣失認(着ていることがわからない)	27	
家族関係	28	

備考：

* 他群に比較して6位以上上位にある項目は太字、6位以下下位にある項目は斜体

* 両群において5位以内の差は網かけ

(表 2-2-27) 衣服失行事例における対応視点別選択率比較

新人		選択率 順位	指導者		
人数 (N=38)	選択割合		視点項目	選択割合	人数 (N=43)
14	36.8	1	着衣失行(着方がわからない)	41.9	18
8	21.1	2	認知機能	27.9	12
6	15.8	3	過去の生活習慣,生活歴	23.3	10
6	15.8	4	認知症の原因疾患、種類	16.3	7
5	13.2	5	室温	16.3	7
5	13.2	6	私物の管理状況	16.3	7
4	10.5	7	本人の意志、気持ち	16.3	7
4	10.5	8	スタッフの対応	14.0	6
4	10.5	9	普段の行動状況	14.0	6
3	7.9	10	健康、身体状況、バイタル	14.0	6
3	7.9	11	嗜好、こだわり、趣味	11.6	5
3	7.9	12	認知症の進行度	11.6	5
3	7.9	13	当該行為の開始時期	11.6	5
3	7.9	14	ADL・(残存能力)	11.6	5
2	5.3	15	着衣失認(着ていることがわからない)	9.3	4
2	5.3	16	嗜好、こだわり、趣味	9.3	4
2	5.3	17	当該行為時の様子	9.3	4
2	5.3	18	視力	9.3	4
1	2.6	19	ADL・(残存能力)	7.0	3
1	2.6	20	他者との関係	7.0	3
1	2.6	21	精神状態・気分	4.7	2
1	2.6	22	せん妄の有無	4.7	2
1	2.6	23	体温調節機能	2.3	1
1	2.6	24	転倒の危険性	2.3	1
1	2.6	25	清潔度	2.3	1
1	2.6	26	外出希望の有無	2.3	1
1	2.6	27	BPSD・出現症状、行動	2.3	1
1	2.6	28	分類不能	2.3	1
0	0.0	29	性格	2.3	1
0	0.0	30	コミュニケーション能力	2.3	1
0	0.0	31	既往歴、現病、疾病	2.3	1
0	0.0	32	タンスの仕様	2.3	1
0	0.0	33	排泄状況	2.3	1
0	0.0	34	睡眠状態	0.0	0
0	0.0	35	暑がり、寒がりか	0.0	0
0	0.0	36	衣類の汚れ	0.0	0
0	0.0		服の置き場所	0.0	0
0	0.0		家族関係	0.0	0

* 備考:新人の無回答を網かけ

新人、指導者とも選択率 10%の境界で二重線

○指導者に特徴的な項目を太字斜体

条件1 指導者の選択率 10%以上の項目で、新人の選択率 10%以上に入っていない項目

条件2 指導者が選択していて、新人が選択していない項目

○新人に特徴的な項目を太字斜体

条件は上と同様

(表 2-2-28) 着衣失行事例におけるアセスメント視点優先順位比較

指導者のアセスメント視点項目	総合優先順位	新人のアセスメント視点項目
着衣失行(着方がわからない)	1	着衣失行(着方がわからない)
認知機能	2	認知機能
過去の生活習慣,生活歴	3	認知症の原因疾患、種類
本人の意志、気持ち	4	過去の生活習慣,生活歴
認知症の原因疾患、種類	5	私物の管理状況
スタッフの対応	6	室温
嗜好、こだわり、趣味	7	スタッフの対応
室温	8	普段の行動状況
健康、身体状況、バイタル	9	本人の意志、気持ち
普段の行動状況	10	当該行為の開始時期
ADL・(残存能力)	11	認知症の進行度
認知症の進行度	12	着衣失認(着ていることがわからない)
性格	13	健康、身体状況、バイタル
当該行為時の様子	14	視力
コミュニケーション能力	15	当該行為時の様子
当該行為の開始時期	16	転倒の危険性
私物の管理状況	17	清潔度
他者との関係	18	嗜好、こだわり、趣味
既往歴、現病、疾病	19	せん妄の有無
タンスの仕様	20	体温調節機能
視力	21	外出希望の有無
せん妄の有無	22	BPSD・出現症状、行動
排泄状況	23	他者との関係
衣類の汚れ	24	精神状態・気分
睡眠状態	25	ADL・(残存能力)
暑がり、寒がりか	26	
着衣失認(着ていることがわからない)	27	
服の置き場所	28	
精神状態・気分	29	
家族関係	30	

備考：

* 他群に比較して6位以上上位にある項目は太字、6位以下下位にある項目は斜体

* 両群において5位以内の差は網かけ

(表2-2-29) 他者の衣服を着る事例における対応視点別選択率比較

人数 (N=37)	選択割合	新人	選択率 順位	指導者	選択割合	人数 (N=43)
		視点項目		視点項目		
15	40.5	私物の管理状況	1	認知機能	34.9	15
14	37.8	認知機能	2	他者との関係	32.6	14
8	21.6	認知症の原因疾患、種類	3	私物の管理状況	25.6	11
7	18.9	過去の生活習慣、生活歴	4	過去の生活習慣、生活歴	18.6	8
5	13.5	スタッフの対応	5	普段の行動状況	18.6	8
5	13.5	服の置き場所	6	認知症の原因疾患、種類	16.3	7
4	10.8	嗜好、こだわり、趣味	7	スタッフの対応	16.3	7
4	10.8	居住環境全般	8	嗜好、こだわり、趣味	16.3	7
3	8.1	認知症の進行度	9	居住環境全般	16.3	7
3	8.1	衣服の適合(サイズ・形)	10	精神状態・気分	11.6	5
2	5.4	他者との関係	11	当該行為時の様子	11.6	5
2	5.4	精神状態・気分	12	認知症の進行度	9.3	4
2	5.4	本人の意志、気持ち	13	本人の意志、気持ち	9.3	4
2	5.4	性格	14	健康、身体状況、バイタル	9.3	4
1	2.7	普段の行動状況	15	当該行為の頻度・時間帯	7.0	3
1	2.7	当該行為時の様子	16	見当識	7.0	3
1	2.7	健康、身体状況、バイタル	17	コミュニケーション能力	7.0	3
1	2.7	当該行為の頻度・時間帯	18	服の置き場所	4.7	2
1	2.7	見当識	19	性格	4.7	2
1	2.7	ADL・(残存能力)	20	ADL・(残存能力)	4.7	2
1	2.7	職員との関係性	21	職員との関係性	4.7	2
1	2.7	排泄状況	22	衣類の汚れ	4.7	2
1	2.7	家族関係	23	視力	4.7	2
1	2.7	既往歴、現病、疾病	24	排泄状況	2.3	1
1	2.7	皮膚疾患、傷跡	25	家族関係	2.3	1
1	2.7	清潔度	26	当該行為発生場所	2.3	1
1	2.7	睡眠状態	27	ものとり妄想	2.3	1
1	2.7	食事量	28	BPSD・出現症状、行動	2.3	1
1	2.7	着衣失認(着ていることがわからない)	29	室温	2.3	1
1	2.7	タンスの仕様	30	分類不能	2.3	1
1	2.7	分類不能	31	衣服の適合(サイズ・形)	0.0	0
0	0.0	コミュニケーション能力	32	既往歴、現病、疾病	0.0	0
0	0.0	衣類の汚れ	33	皮膚疾患、傷跡	0.0	0
0	0.0	視力	34	清潔度	0.0	0
0	0.0	当該行為発生場所	35	睡眠状態	0.0	0
0	0.0	ものとり妄想	36	食事量	0.0	0
0	0.0	BPSD・出現症状、行動	37	着衣失認(着ていることがわからない)	0.0	0
0	0.0	室温	38	タンスの仕様	0.0	0

* 備考: 新人の無回答を網かけ

新人、指導者とも選択率 10%の境界で二重線

○指導者に特徴的な項目を太字斜体

条件1 指導者の選択率 10%以上の項目で、新人の選択率 10%以上に入っていない項目

条件2 指導者が選択していて、新人が選択していない項目

○新人に特徴的な項目を太字斜体

条件は上と同様

(表 2-2-30) 他者の衣服を着る事例におけるアセスメント視点優先順位比較

指導者のアセスメント視点項目	総合優先順位	新人のアセスメント視点項目
認知機能	1	私物の管理状況
他者との関係	2	認知機能
私物の管理状況	3	認知症の原因疾患、種類
過去の生活習慣、生活歴	4	過去の生活習慣、生活歴
普段の行動状況	5	服の置き場所
嗜好、こだわり、趣味	6	スタッフの対応
認知症の原因疾患、種類	7	居住環境全般
居住環境全般	8	嗜好、こだわり、趣味
当該行為時の様子	9	認知症の進行度
スタッフの対応	10	衣服の適合(サイズ・形)
精神状態・気分	11	本人の意志、気持ち
本人の意志、気持ち	12	他者との関係
認知症の進行度	13	性格
健康、身体状況、バイタル	14	精神状態・気分
見当識	15	既往歴、現病、疾病
当該行為の頻度・時間帯	16	清潔度
コミュニケーション能力	17	当該行為時の様子
衣類の汚れ	18	食事量
視力	19	普段の行動状況
服の置き場所	20	当該行為の頻度・時間帯
職員との関係性	21	見当識
性格	22	着衣失認(着ていることがわからない)
ADL・(残存能力)	23	家族関係
BPSD・出現症状、行動	24	排泄状況
排泄状況	25	睡眠状態
当該行為発生場所	26	タンスの仕様
ものとり妄想	27	職員との関係性
室温	28	皮膚疾患、傷跡
家族関係	29	健康、身体状況、バイタル
	30	ADL・(残存能力)

備考：

* 他群に比較して6位以上上位にある項目は太字、6位以下下位にある項目は斜体

* 両群において5位以内の差は網かけ

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
分担研究報告書

認知症ケアにおけるアセスメントモデルの構築に関する研究
—入浴・整容行為支援における認知症介護指導者の視点を通して—

分担研究者 矢吹 知之（認知症介護研究・研修仙台センター）
研究協力者 大久保 幸積（社会福祉法人幸清会）
吉田 恵（グループホーム幸豊ハイツ）
池田 和泉（社会福祉法人愛生会 唐松荘）
喜井 茂雅（有限会社スローライフ）

研究要旨

本研究は、認知症高齢者の入浴・整容に関する行動障害へのケアアセスメントについて、認知症介護エキスパートの視点を抽出整理する事を目的とし、全国の認知症介護指導者996名より、入浴行為アセスメント調査が165名、整容行為アセスメント調査が163名を抽出し、比較群として介護経験1年未満の新人職員も同数を対象に、入浴及び整容行為事例についてのアセスメント視点に関する質問紙を郵送にて配布し、入浴行為調査が46件（有効回収率27.8%）、整容行為調査が51件（有効回収率31.2%）から郵送にて回答を得た。

認知症介護指導者における入浴行為へのアセスメント視点は、「認知症の状態」「体調、身体状況」「精神、心理」「本人の機能や状態」「介護者に関する事」「他者との関係性」「入浴環境」「入浴方法や条件」「過去の生活歴」等が重要視され、整容行為のアセスメント視点については、「認知症の状態」「疾患、体調、身体状況」「精神、心理」「本人の機能や特性」「介護方法」「他者との関係性」「整容環境」「整容の方法や慣習、条件」「過去の生活歴」が重要視され、新人に比較して指導者の視点は過去の生活歴など長期間にわたる生活行動に焦点を当てる傾向が認められた。

A. 研究目的

2003年に報告された高齢者介護研究会による「2015年の高齢者介護」報告によると、認知症ケアは今後の高齢者介護のモデルであり、認知症高齢者ケアの普遍化の必要性が謳われている。認知症ケアの普遍化にはケアの標準化が必要となり、そのためにも認知症高齢者が有する能力を活用しながら、主体的に生活を遂行できるような方法の開発や系統的なエビデンスの収集、そして評価の確立が早急に求められている。今後、増加が予測される認知症専用型共同生活介護、小規模多機能型居住介護などのケアの質の確保及び向上、又、認知症ケアの専門家養成の観点からも施設・在宅を問わない標準的な認知症ケアのモデル構築や評価指標の作成は重要な課題であると

考えられる。

認知症ケアにおける評価指標の開発はケアアセスメントツールや施設サービス評価、環境評価等に関する研究が盛んに行われてきており、実践の場で活用されているものも多い。特に、ケアアセスメントの評価ツールについてはケアマネジメント手法とともに多くのツールが研究され、昨今では認知症介護研究・研修センターを中心に開発された認知症高齢者の介護用アセスメントツール「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」が代表的なものである。センター方式は、『その人らしいあり方』、『安心・快』、『自分の力の発揮』、『安全・健康』、『なじみの暮らしの継続』の5つの視点を基本とし、24時間の生活の流れにそって利用者本位のアセスメントを行うためケアマネジメント用ツールである。他には、Richard Flemingらによって執筆され、内藤らによって翻訳された「痴呆性高齢者の介護のためのモデルケアプラン」は標準的な認知症介護を生活状況別、BPSD別、活動別に例示し認知症介護のモデルを提案している。特に、身体的問題、基本的な生活行為、認知症に伴う行動・心理症状、余暇や他者との関係、看護など7分類について55項目の詳細な場面ごとに予防、対応、根拠のケアアセスメントモデルが例示されている。更に地域密着型サービス用に開発されたものが地域密着型サービス評価であり「理念に基づく運営」、「安心と信頼に向けた関係作りと支援」、「その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント」、「その人らしい暮らしを続けるための日々の支援」、「アウトカム評価」の5つの領域について100項目のチェック項目から構成されている。

上述した評価指標は多くの認知症介護に関連した事業所の質向上に貢献し、標準的なケアの遂行に帰依してきたと考えられるが、実際に認知症ケアは個別ケアが基本と言われ、高齢者の個別的要素によって介護の方法は多種多様であり、ケアの一般化や標準化は非常に難しいのも事実である。しかし、認知症介護の熟練者（以下エキスパート）は数多くの認知症高齢者に対して効果的なケアを実行し、認知症高齢者の安定した生活を実現してきた事も事実である。つまり、認知症介護のエキスパートは多くの認知症高齢者への対応から、個々の状況に応じた最良の方法を多くの経験や体験の中から学び、個人の経験としてケアの一般化或いは法則化を行っているとも考えられるのではないだろうか。

昨今、知識工学や情報工学の分野、特に人工知能（AI）の分野においてエキスパートシステムが開発され注目をあびている。エキスパートシステムとは、特定の分野の専門知識を持ち、その分野に関して適切なアドバイスができるような、専門家の代わりにするコンピューターシステムの事を指している。専門家の知識や思考・判断過程を明らかにしコンピューターで代用可能なシステムを構築し、専門家の代わりに推論や判断を行うことが目的であり、熟達した技術や知識の汎用化や、効率的な問題解決を可能にすると考えられる。認知症介護の標準化においても、認知症介護エキスパートにおける知識や技術、判断過程、思考過程を明らかにし、有効な方法の手順を整理し、広く伝達、教育することが我々研究者には求められていると思われる。認知症介護における判断過程を推測すると、目の前の状況を認知し、状況の発生原因を推測しながら、推測される原因と関連した情報を収集、確認し、原因を特定し、原因を解決するための有効かつ効率的な方法を過去の経験パターンから検索し、調整しながら試行していき、失敗すれば原因の特定

作業をやり直したり、別の経験パターンから異なる方法を試行し、これらの過程を繰り返しながら課題の解決に至る事が予測される。つまり、適正なケアの実施には、状況の正確な認知と、課題や問題の原因特定のプロセスが重要であり、認知症介護エキスパートの原因特定手法を把握することが、認知症介護標準化のための必須要件であろう。原因特定とはケアマネジメント過程におけるアセスメントと同義であると捉えれば、本研究では特に認知症介護エキスパートにおけるアセスメント手法を参考に認知症介護におけるアセスメントモデルを整理することが目的である。

認知症介護のモデル作成にあたって、認知症介護の範囲を明らかにしておく必要があるが、本研究では早急に取り組むべき認知症介護として、高齢者の生活の安定化を優先条件と考え、生活の基本的な行為である入浴・食事・排泄に関する行為と、生活の管理的な行為である着替え、整容行為、認知症高齢者の特徴的な行動として頻繁にみられる徘徊、帰宅願望などのBPSDに関連する行為への支援や対応方法に焦点をあてる事が早急に必要であると考えている。

本研究においては特に認知症高齢者の基本的な生活行為の内、入浴・整容に関する行動障害へのケアアセスメントについて、認知症介護エキスパートの視点を収集整理し、入浴及び整容行為に関するケアアセスメントモデル作成の基礎資料とすることを目的とする。

B. 研究方法

1. 調査対象者

1) 認知症介護の専門家要件

本研究の目的である認知症介護専門家（以下エキスパート）に関する該当要件として、認知症介護指導者であること、認知症介護に関する経験が豊富であることの2点を考慮しエキスパートの選定を行った。

(1) 認知症介護指導者

認知症介護指導者は2000年より始まった認知症介護研修事業における認知症介護指導者養成研修を修了された、都道府県政令指定都市の認知症介護を指導するエキスパートとして、各地域の認知症介護研修（実践者研修、実践リーダー研修、管理者研修、計画作成担当者研修、開設者研修）を企画しつつ、講義、演習、実習等の講師やファシリテーターを担当し、担当地域の介護保険施設・事業所等における認知症介護の質の改善について指導や助言を現在実践しており、全国で約1000名程度活躍している（平成19年11月現在）。

認知症介護指導者養成研修の受講要件として以下の4つの条件を全て満たす事とされ、非常に厳格な条件が決められており、更に各行政担当者の推薦を要する。

- ①医師、保健師、助産師、看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士、言語聴覚士又は精神保健福祉士のいずれかの資格を有する者、又はこれに準ずる者
- ②下記のいずれかに該当する事
 - ア 介護保険施設・事業者等に従事している者（過去において介護保険施設・事業者等に従事していた者も含む。）

イ 福祉系大学や養成学校等で指導的立場にある者

ウ 民間企業で認知症介護の教育に携わる者のいずれかの要件に該当する者であって
相当の介護実務経験を有する者

③認知症介護実践者研修（これと同等であると県が認めた研修を含む。）及び認知症介護
実践リーダー研修を修了した者（旧基礎課程及び旧専門課程を修了した者を含む。）

④認知症介護実践研修の企画・立案に参画又は講師として従事することが予定されている
者

加えて、以上の条件に合致し更に全国に3カ所設置されている認知症介護研究・研修セ
ンターにて10週間の認知症介護指導者用カリキュラムを受講し修了した者が認知症介護
指導者として認められることになる。

よって、認知症介護エキスパートの要件として認知症介護指導者の要件はライセンス、
教育経験ともに合致しており認知症介護指導者を認知症介護エキスパート候補としてみ
なすこととした。しかし、上記の認知症介護指導者の要件を満たしていてもエキスパート
として最も重要な要素である認知症介護の技術や経験、知識に関する要素が不明であるた
め、更に認知症介護に関する経験等について確認する質問項目を設けた。

(2) 認知症介護に関する経験

本調査で設定した認知症介護の経験に関する確認項目としては以下のようなものである。

①認知症介護経験年数（今までに認知症高齢者の方と直接関わるような支援や介護、対応
をしてきた合計年数）

②認知症介護直近日（認知症介護を最も最近に行った日は何日くらい前か）

③認知症介護頻度（現在、認知症介護をどれくらいの頻度で実施しているか）

④認知症介護人数（過去から今までの認知症介護実施人数）

⑤認知症介護成功体験の有無（今までの認知症介護の中で、介護が円滑に成功した事があ
るか）

⑥認知症介護成功体験の頻度（認知症介護が成功した体験の頻度はどれくらいか）

⑦認知症介護成功体験の直近日（認知症介護が成功した時は、最も最近で何日くらい前か）

⑧徘徊行動に関する対応の考え方

以上、8点について認知症介護におけるエキスパートの最低基準を確認することとした。
エキスパート要件として、実践に関する技術や、現在現役であることが重要であることを
考慮し以上のような確認項目を設定した。

エキスパート最低基準の判断基準は、認知症介護を実施した日が10年以上前で最近は今
まで全く介護を行っていない場合や、最近介護を実施していても頻度が数回など希である場合、
認知症介護を実施した人数が数名など極端に経験事例が少ないこと、認知症介護に関する
成功体験が皆無の場合、成功体験があっても10年以上前だったり、頻度が希である場合、
認知症介護の考え方として徘徊事例についての考え方が極端に偏っていたり、明らかに非
人道的であるような場合（この場合の判断は外的基準が難しく、主観的な判断になりやす

い為、本研究における複数の研究協力者によって判断を行った)については、認知症介護指導者としての要件を満たしていても、認知症介護エキスパートの要件から除外する事とし、本研究における対象者からは除外して取り扱った。

2) 比較対象群

本研究の目的は認知症介護エキスパートにおけるアセスメント視点の抽出であるため、認知症介護エキスパートとの比較対象群として認知症介護に従事して1年未満の介護職員(以下新人職員)を設定した。認知症介護エキスパートが在籍する事業所に所属する総介護経験1年未満の職員を対象とした。

よって、新人職員の要件は資格、年齢等は問わず、総介護経験年数1年を条件とした。比較対照群として新人職員を選定した理由は、エキスパートとの差異を明確にする事をねらいとし、経験による視点の差を浮き彫りにする事が目的である。3年勤続以上の中堅職員の場合、優秀な職員はエキスパートの視点を備えている可能性が高くエキスパートとの差異が不明瞭になるため経験1年未満の新人を選定した。新人とエキスパートの視点が共通のものは経験よりも知識や感性的なものに依拠し、視点が異なる部分は経験が影響するものとして解釈することとした。

3) 調査対象者

(1) 入浴行為に関するアセスメント視点の調査

平成13年度1回目～平成19年度第2回目までの認知症介護指導者研修を修了した全国の認知症介護指導者996名より、受講時期、地域を勘案して6つの質問票に対応して6群に分類抽出し、その中の1群165名を対象とした。比較群として指導者が所属する事業所の経験1年未満の新人職員も同数を対象とした。

(2) 整容行為に関するアセスメント視点の調査

平成13年度1回目～平成19年度第2回目までの認知症介護指導者研修を修了した全国の認知症介護指導者996名より、受講時期、地域を勘案して6つの質問票に対応して6群に分類抽出し、その中の1群163名を対象とした。比較群として指導者が所属する事業所の経験1年未満の新人職員も同数を対象とした。

2. 調査方法

調査方法は、入浴及び整容に関する架空事例を5つずつ作成し、対応の視点に関する自記式質問紙を郵送にて配布し、返送にて回収する郵送調査を実施した。調査内容は回答者属性として、年齢、性別、所属事業所、所有資格、役職、教育歴、介護経験年数、勤続年数、認知症介護年数、認知症介護頻度、認知症介護成功体験の有無、頻度、認知症介護実施人数等及び、入浴行為(入浴拒否・出浴拒否・介助拒否・洗髪拒否・浴槽の栓抜き)及び、整容行為(歯磨き拒否・入れ歯装着拒否・洗顔拒否・耳掃除拒否・うがい不可)に関する対応の留意点、重要視点の自由記述式回答の設問にて構成される。

1) 調査内容

(1) 回答者基本属性

回答者の基本属性は、「年齢」、「性別」、「所属事業種」、「所有資格」、「役職」、「最終学歴」、「介護経験年数」、「勤続年数」についてエキスパート群、新人群共通項目として設定した。

(2) 認知症介護の経験

回答者の認知症介護経験に関する項目については、認知症介護エキスパートについての経験度や、現在の認知症介護状況等を確認するために設けた項目であり、特に現役の認知症介護職員である新人群との比較においてエキスパートの認知症介護実態を明らかにする事も目的としている。認知症介護経験に関する項目としては、「認知症介護経験年数(今までに認知症高齢者の方と直接関わるような支援や介護、対応をしてきた合計年数)」、「認知症介護直近日(認知症介護を最も最近に行った日は何日くらい前か)」、「認知症介護頻度(現在、認知症介護をどれくらいの頻度で実施しているか)」、「認知症介護人数(過去から今までの認知症介護実施人数)」、「認知症介護成功体験の有無(今までの認知症介護の中で、介護が円滑に成功した事があるか)」、「認知症介護成功体験の頻度(認知症介護が成功した体験の頻度はどれくらいか)」、「認知症介護成功体験の直近日(認知症介護が成功した時は、最も最近で何日くらい前か)」、「徘徊行動に関する対応の考え方」を設けた。主に、エキスパートの要件としてライセンスや過去の経験のみではなく、現役かどうかを重視し、現在の経験や実施人数を重要視した選定となった。

(3) 事例の提示

本研究における調査は、認知症高齢者の日常生活上に生起する介護を要する行動について、エキスパートの対応視点を抽出し、認知症介護のケアアセスメントのモデル作成が目的となる為、入浴場面、整容場面において頻繁に生起しやすい認知症高齢者の行動について簡易事例を作成し、記述式にて回答を求めた。入浴場面、整容場面を採用した理由は、我々が実施した平成18年度研究の結果から生活支援における介護頻度や介護量が最も多く認知症高齢者の生活安定を目指したケアの中心的場面である事による。行動場面の選定については、認知症高齢者介護に関わっている認知症専用型共同生活介護事業所の管理者及びリーダー4名に、入浴行為・整容行為に関する介護を要する認知症高齢者の行動について挙げてもらい、特に頻繁に生起する行動について5つ程度をリストアップしていただいた。

更に、認知症高齢者の行動障害に関する先行研究や認知症高齢者の介護困難場面に関する先行研究を勘案し、入浴行為について5つ、整容行為について5つの状況を選出し、研究者によって事例を作成した。事例の作成にあたっては、エキスパートのアセスメント視点の抽出を目的とするため、選択肢は設けず自由回答とし、事例の情報を極力最少にし、回答の自由性を考慮した。

①入浴行為に関する事例

- ・入浴拒否事例

「77歳のOさんは、入浴に誘うといつも入浴を嫌がり、何日もお風呂に入っていません。」

・ 出浴拒否事例

「82歳のTさんは、入浴時、浴槽には入りますが、出るように誘っても浴槽から出るのを嫌がります」

・ 入浴介助拒否事例

「80歳のQさんは、入浴時、介助をするため浴室と一緒に入ろうとすると、介助を拒否します。」

・ 洗髪拒否事例

「83歳のRさんは、入浴時、洗髪を嫌がり、何日も洗髪をしていません。」

・ 浴槽の栓抜き事例

「77歳のUさんは、入浴の最中に、浴槽の栓を抜いてしまいます。」

②整容行為に関する事例

・ 歯磨き拒否事例

「82歳のABさんは歯磨きをしようとせず、歯磨きを勧めても嫌がり、何日も歯を磨いていません。」

・ 入れ歯装着拒否事例

「79歳のACさんは、入れ歯をするのを嫌がります。」

・ 洗顔拒否事例

「74歳のADさんは、顔を洗おうとせず、声かけをしても嫌がり、何日も顔を洗っていません。」

・ 耳掃除拒否事例

「80歳のAFさんは、耳掃除をしていないので、耳掃除をしようと促しても嫌がり、何日も耳掃除をしていません。」

・ うがい不可事例

「77歳のAEさんは、歯を磨いた後、うがいができず、飲んでしまいます。」

(4) 質問項目

①対応に必要な情報、視点

提示事例についてうまく対応するためには、先ず、どのような視点や情報が必要か、直感で思いついたものから、順番に、個数を限定せず自由回答で記入していただいた。エキスパートの着眼点や視点について直感性を重視し敢えて選択肢を採用せず、個数についても量を測定するため限定しないこととした。

②その根拠・理由

上記で記述された視点の必要な理由について補足的に説明する欄を設け、視点の意図や情報の活用方法について記述していただいた。

この設問を設けた理由は、視点としての記述内容が同じであってもエキスパートによ

って重要とする理由が異なる場合があった時、それらを分析上判別するためである。

③優先順位

上記で挙げられた視点について、特に重要と考えられるものについて優先順位を付記していただいた。優先順位の基準は回答者の判断によるものであり、特に新人群の順位とエキスパートの順位を比較し、エキスパートのアセスメント視点の特性を明確にするために用意した設問である。

2) 調査期間及び手続き

調査は作為抽出による標本調査とし、平成13年度1回目～平成19年度第2回目までの認知症介護指導者研修を修了した全国の認知症介護指導者996名より、受講時期、地域を勘案して165名（入浴行為調査）及び163名（整容行為調査）を抽出し、合わせて同施設に所属する新人職員も同数を対象とし、平成20年1月～2月について質問紙を郵送にて配布し、返送にて回収する郵送調査を実施した。

3. 分析方法

1) 基本属性

回答者の基本属性及び認知症介護の経験に関する数量データについては、エキスパート群、新人群について度数或いは平均値、最小値、最大値、標準偏差、割合を算出し、度数の偏りや関連については χ^2 検定及び残差分析を実施し、平均値の差についてはt検定を実施し、危険率5%未満を有意な差と認めた。

2) 事例への対応視点・根拠

事例への対応視点及び根拠については、記述データであるため研究者及び統計調査員2名にてK J法の考え方を採用し、意味の類似している項目同志をまとめて分類を実施し、分類後の一致率を算出した。分類の基準は、今回の研究の目的がアセスメント視点の質や量を明らかにし、今後のケア指標の項目として活用することを前提としているため、可能な限り項目を要約せず詳細な記述のまま分類を行うために分類範囲を狭く設定し分類後の項目数が多くなることも考慮に入れて分類を行った。Q 2の根拠に関する記述については、対応視点の分類判断の際の参考とし、対応視点の記述が異なっても根拠欄に記載されている記述内容が同様の場合は、根拠内容を優先して分類を実施した。

3) 選択率

分類後の対応視点項目ごとにエキスパート及び新人の回答の選択の有無をカウントし、選択した人数について全体人数中の割合を求め、全体に占める選択率として分析を行った。

4) 優先順位

分類後の対応視点項目の優先順位データの分析については、各事例ごとにエキスパート及び新人が選択した最大項目数を上限値とし、優先順位1位の場合は最大項目数を得点とし、2位は最大項目数-1を得点とし、以下1ずつ減じて、最下位は1点を付与し項目ごとの合計得点を算出し総合得点とした（例えば選択された項目が回答者全体で30個の場合は、1位項目

は30点、2位は29点、30位は1点であり、ある回答者が15個までしか選択していない場合は、15個以外の項目は0点となる)。項目ごとの総合得点の高い順から総合順位を付与し、エキスパートと新人における対応視点の優先順位の比較を実施した。

(倫理面への配慮)

本研究では、研究協力者である介護職員及び一部個人情報が必要とする認知症高齢者或いはその代理者に対して、個人情報の取り扱いや人権擁護に配慮し、十分なインフォームドコンセントを保証することを最優先し、研究等によって被ることが予測される不利益について説明文書および同意文書をそれぞれ作成し、十分な説明をし文書にて同意を得ることとしている。尚、研究者所属機関における定例の研究倫理審査委員会にて研究方法における倫理審査を行い倫理上の承認を得る事を義務づけている。

C. 結果と考察

1. 入浴行為に関するアセスメント調査

1) 回答者属性

本調査の有効回答91名(指導者46名、新人45名)における年齢、性別、修了センター、職名、役職、資格、教育歴、卒業後経過年数、所属事業種、勤続年数、総介護経験年数、認知症介護経験年数について割合を算出し、比較を実施した。

(1) 年齢

有効回答84名(指導者44名、新人40名)における平均年齢は、37.6歳(SD13.2歳)で最少年齢が19歳、最高年齢が65歳であった。指導者と新人を比較すると、指導者が平均年齢45.3歳(SD10.5歳)で最少年齢28歳、最高年齢65歳、新人が平均年齢29.2歳(SD10.5歳)、最少年齢19歳、最高年齢60歳であった。指導者は34.8歳~55.8歳が68%を占め、一方、新人は18.6歳~39.7歳が68%を占めており、指導者の平均年齢は新人に比較して有意に高い事が示唆された($t=7.01$, $p<0.01$)。(表3-1-1参照)

(2) 性別

有効回答87名中(指導者46名、新人41名)の性別割合は男性が24名(27.6%)、女性が63名(72.4%)と女性の割合が多く、指導者と新人を比較すると指導者46名中、男性が13名(28.3%)、女性が33名(71.7%)、新人41名中、男性が11名(26.8%)、女性が30名(73.2%)であり、性別割合の指導者と新人で特に有意な差は認められなかったが、指導者、新人ともに女性が3倍近く多い傾向が見られた。(表3-1-2参照)

(3) 修了センター(指導者のみ)

有効回答44名の修了センターの割合は、東京が14名(31.8%)、仙台が13名(29.5%)、大府が11名(25.0%)であった。(表3-1-3参照)

(4) 職名

有効回答76名中(指導者40名、新人36名)の職名の割合はケアワーカーが36名(47.4%)、

ケアマネージャーが12名（15.8%）、相談員が7名（9.2%）、看護師が5名（6.6%）、その他が16名（21.1%）であった。指導者（40名）では、ケアワーカーとケアマネージャーが同数で各11名（27.5%）、相談員が7名（17.5%）、看護師が4名（10.0%）、その他が7名（17.5%）と比較的分散しているのに対して、新人（36名）では、ケアワーカーが25名（69.4%）、ケアマネージャーと看護師が同数で各1名（2.8%）、その他が9名（25.0%）で、ケアワーカーとその他で9割強を占めている。（表3-1-4参照）

（5）役職

有効回答87名中（指導者45名、新人42名）の役職の割合は主任・リーダーが16名（18.4%）、管理者が10名（11.5%）、施設長が1名（1.1%）、その他が11名（12.6%）で、49名（56.3%）が役職なしであった。指導者（45名）では、主任・リーダーが16名（35.6%）、管理者が10名（22.2%）、施設長が1名（2.2%）などに対して、新人（42名）では全員が役職なしである。（表3-1-5参照）

（6）資格

有効回答85名中（指導者46名、新人39名）の資格の所有割合は介護福祉士が52名（61.2%）、ケアマネージャーが31名（36.5%）、ヘルパーが18名（21.2%）、社会福祉士が12名（14.1%）、看護師（准看護師）が10名（11.8%）、栄養士が1名（1.2%）、その他が8名（9.4%）であった。指導者（46名）では、介護福祉士が31名（67.4%）、ケアマネージャーが30名（65.2%）、社会福祉士が12名（26.1%）、看護師（准看護師）が9名（19.6%）、ヘルパーが3名（6.5%）など資格が多様であるのに対し、新人（39名）では、介護福祉士が21名（53.8%）、ヘルパーが15名（38.5%）、看護師（准看護師）とケアマネージャーと栄養士の3資格が各1名（2.6%）で介護福祉士とヘルパーに特化している。（表3-1-6参照）

（7）教育歴

有効回答91名中（指導者46名、新人45名）の教育歴は専門学校卒が35名（38.5%）、大学卒が24名（26.4%）、高校卒が17名（18.7%）、短大卒が8名（8.8%）であった。指導者（46名）では、大学卒が19名（41.3%）、専門学校卒が15名（32.6%）、高校卒が8名（17.4%）、短大卒が3名（6.5%）で、新人（45名）では、専門学校卒が20名（44.4%）、高校卒が9名（20.0%）、短大卒と大学卒が同数で各5名（11.1%）であり、指導者と新人の教育歴構成に有意差が認められた。（ $\chi^2=9.06$ 、 $p<0.03$ ）（表3-1-7参照）

（8）卒業後経過年数

有効回答90名（指導者46名、新人44名）における卒業後の平均経過年数は、14.8年（178.0ヶ月、SD147.8ヶ月）で最少が3ヶ月、最高が41年（492ヶ月）であった。指導者と新人を比較すると、指導者が平均22.2年（266.2ヶ月、SD114.0ヶ月）で最少2.9年（35ヶ月）、最高41年（492ヶ月）、新人が平均7.2年（85.8ヶ月、SD121.0ヶ月）、最少3ヶ月、最高39年（468ヶ月）であった。指導者は12.7年～31.7年が68%を占め、一方、新人は17.2年以下が68%を占めており、指導者の卒業後平均経過年数は新人に比較して有意に高い事が示